Kyushu Medical Center NEWS No.102

独立行政法人 国立病院機構 九州医療センターニュース 2023 JANUARY

基本理念

病む人に寄り添い、安全かつ最適な医療を提供します

九州医療センターの基本理念

基本理念は2018年10月に職員全員の意見を集約して決定されました。「病む人に寄り添う」とは、常に患者さんに接して苦痛や希望を知り、患者さんの権利を第一に、ご家族や重要な関係者の思いにも耳を傾けて温かい医療を実践する姿勢を表しています。「安全」な医療とは、検査および治療成績とともに当院での成績をもとに十分な説明を行い、患者さんの理解と同意を得て、可能な限り不利益を最小限化して提供する医療です。また「最適な」医療とは、病院の総合力を生かして、いくつもの選択肢の中から患者さんの自己決定権のもとで選ばれた医療を、患者さんと医療者が協議して実践する医療です。

職員は時代の変化と患者さんのニーズに柔軟に対応できるよう日々研鑽し、医療連携を推進し、病院の健全な経営にも積極的に参画し、一丸となって基本理念および運営方針を推進します。

INDEX

1 年頭所感 …… 森田、岡田、岩﨑、髙見、中島、福泉、冨永、原田、佐々木
2 さわやかナーシング …… 島居基久
3 医療最前線 …… 今坂堅一
4 チーム医療ルネッサンス …… 岡田　靖
5 ヒポクラテスのカフェ …… 吉住秀之／九州ところどころ
6 教授就任のご挨拶 …… 中尾新太郎
7 新任のご挨拶 …… 長谷川英一
8 九州医療センターのWEBサイトをリニューアルしました …… 福泉公仁隆

新年を迎えるにあたって「チェンジ」or「アップデート」

病院長 森田 茂樹

新年あけましておめでとうございます。新しい年を迎えるとだれもが明るい未来に思いを馳せますが、新型コロナウイルスのパンデミックという途方もない大波が襲ってきたことを昨年まで経験し、今もその余波に対応している状況で明るい未来を描くためには私たちは未来に向かって何を残そうとしているのかを問いかけることから始めなければならないと思います。残すものを考えるには逆にパンデミックで何を失い、何が模索され、その結果何が残ったかを振り返ることが必要でしょう。

失ったものについて考えるならば、言うまでもなく多くの貴重な命が失われたことに触れないわけにはいきません。日本全国で50,819人*、福岡市では539人**の方が新型コロナウイルス感染によって亡くなられてました。亡くなられた方々のそれぞれの無念の思いに寄り添い救命するためにできたかもしれないこと、あるいはそのときにはできなかったとしても、将来にはできるようになるかもしれないことを整理して新しい時代に引き継ぐことが求められていると思います。

当院の新型コロナウイルス対応に関しては福岡県の第一例目の患者さんが入院されたこと、その患者さんが急激な経過で悪化したもののなんとか救命できたこと、また2020年９月に経験した深刻なクラスターへの対応状況などをいろいろな機会に発信してきました。当時は有効なワクチンや治療薬がない状況でしたが、そのような困難な対応の経験が現在の診療に生かされています。

一方で露呈した問題点を解決できないままの課題もあります。たとえば大きなクラスターが発生して新規入院と外来をストップしたときのことです。再来患者さんの処方をするのに電話とファックスで対応しましたが、途方もない長時間の対応を迫られました。オンライン診療は現在も議論の的となっていますが有事を考えると積極的に導入すべきシステムであると思います。電話やファックスをオンラインにかえるという方向性はもちろんデジタル化（DX）に通じます。当院でもLINEによる新規予約登録を始め、その件数は順調に伸びています。一方でDXに関する究極的な方向性は電子カルテの標準化でしょうが、その前に医療データの標準化を公的な組織で進めてもらいたいものです。いろいろな医療施設に存在するご自身のデータを患者さんのスマホで安全に閲覧できて、なおかつすべての医療施設で共有できることの利便性、有用性はどんなに強調してもしすぎることはないと思っています

福岡地区のパンデミックにおいては早い段階で役割分担が明確になりました。たとえばECMOの必要な患者さんは大学病院で対応していただいて大変助かりました。当院の救命救急センター病棟は構造上ECMOの患者さんを一人でも受け入れてしまうとそれ以外の患者さんを入院させることができない構造になっています。ECMOの患者さんの受け入れをしなくてよかったおかげで一般救急を積極的に受け入れることができました。一方で人的資源、物的資源という観点からは十分にECMO治療ができる陣容を当院は有していますので建物の構造さえ許せば重症患者の治療を担える施設だと自認しています。将来的に病棟の建て替えを行うときには考慮されるべき課題です。

コロナへの対応に限定しての今までの振り返りをほんの少しだけ述べさせていただきました。紆余曲折やいろいろな問題点があったものの当院としても福岡の地域としても決して十分ではありませんでしたが、前に進むことができたと総括できるのではないでしょうか。やってきたことは全てダメだっただから変えなければならない、というのではなく今までの蓄積を生かして足りないところを次々に更新していくという姿勢を保ちたいと思います。「チェンジ」ではなく緻密で頻繁な「アップデート」を繰り返すことが未来に繋がるのではないでしょうか。

*https://www3.nhk.or.jp/news/special/coronavirus/data-all/
**https://www3.nhk.or.jp/news/special/coronavirus/data-all/
上記いずれも2022年12月８日閲覧データ
10万人当たりの死亡数は全国 40.6人/10万人、福岡市34.8人/10万人となる

一念一念と重ねて

副院長（院内総務） 岡田 靖

「一念一念と重ねて一生なり」。一昨年冬、恩師である故 尾前照雄先生の追悼集の編集を担当し、尾前先生と親交があった元厚生省事務次官、元内閣官房副長官の古川貞二郎先生に恐る恐る追悼原稿を直接、電話でお願いしたところ、大変気さくなお人柄で快諾していただきました。さらに原稿とともに、古川先生の著書「鎮魂ハルの生涯」をご恵贈いただきました。母の生涯を通じて戦争と、ご自身の人生と、地域の人々の暮らしを描写したその本にも大変感動しましたが、一枚の紙が挟んであり、古川先生の座右の銘として自筆で記載されていたのが冒頭の言葉です。葉隠聞書として伝わる言葉で、今を大切に生きる、その積み重ねが一生であると自分なりに解釈しています。誠に残念なことに古川貞二郎先生は、お願いした追悼文をご執筆後、昨年秋にご逝去されました。謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

振り返りますと、私はこの九州医療センターに赴任し、はや29年目を迎えます。この間、診療科医長として脳血管内科の確立、脳神経外科・脳血管センターのチーム医療推進、厚生省九州地方医務局の医系技官などを経験しました。病院幹部も今年22年目を迎えます。九州医療センターは独立行政法人化以降に、地域医療支援病院（福岡市第１号）、救命救急センター、新型コロナ重点医療機関など様々な役割が付与され、成長と発展を続けています。私はまず2004年に地域医療連携に取り組み、紹介・逆紹介の推進を市内でいち早く始めました。その後、臨床研究体制の整備、2018年からは副院長として医療安全と働き方改革、病院機能評価に取り組み、2022年からは患者・家族の包括的支援をめざす脳卒中・心臓病等総合医療センターの立ち上げに統括責任者として力をいれています。時代の求めにしなやかに対応し、最善医療・法令遵守・健全経営のバランスを取りながら、皆をまとめて日々明るく愉しく前進することが使命であると認識しています。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

元気な街「福岡」を医療で支える

副院長 岩﨑 浩己

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

国連の発表によりますと、世界人口が80億人を突破したそうです。低所得国における貧困と飢餓の問題が深刻化すると予想されるなか、ロシアによるウクライナ侵攻も解決の糸口を見出せないまま年を越えて、世界情勢は不穏な空気に覆われています。さらに新型コロナウイルス感染者数も累計６億５千万人を突破し、未だ終息の兆しの見えない状況が暗い影を落としています。

国内に目を転じますと、日本の総人口は毎年50-60万人のペースで減少しています。鹿児島市くらいの大きさの都市が毎年消えていくと思えば、社会に及ぼす影響の大きさは想像するに余りあります。そのような状況下でも、福岡市の人口は2020年に160万人を突破し増加を続けています。天神ビッグバンの先陣を切って整備された水上公園、天神ビジネスセンターに続いて、煌びやかな福岡大名ガーデンシティがオープンするなど、元気な街「福岡」を実感します。この素晴らしい街で暮らす人びとの医療ニーズに応えるべく、精一杯仕事をしようという思いで年始を迎えました。

医療現場では新型コロナウイルス感染者を含む救急搬送患者の増加に伴い、数年前と比べて病院全体の業務負担増は明らかだと思います。救急医療もコロナ診療も専門診療の枠を越えて対応いただいていることに改めて感謝いたします。高度の専門性が求められる急性期医療を提供することが当院の第一義的役割であることは揺るぎませんが、求められる医療に可能な限り対応することも地域を支える基幹病院としての使命です。両方のバランスを取りながら、特定の診療科や部署に負担が偏らないよう配慮した業務分担をさらに進める必要があると考えています。やりがいを感じて仕事ができる環境を維持するために、“元気な街「福岡」を医療で支える”をスローガンに智恵を絞っていければと思います。本年もよろしくお願いいたします。

新年のご挨拶

臨床研究センター長　髙見　裕子

新年、あけましておめでとうございます。

昨年６月、岩﨑浩己先生の後任として臨床研究センター長を拝命いたしました。当初、この領域の言語もルールも分からず、たくさんの方々に多大なご迷惑をおかけいたしました。しかし、その中で新たな出会いがあり、その都度助けて頂き、ようやく様々を理解し始めました。準備に時間がかかりましたが、今年は少しずつお役に立てるよう努力していきたいと考えております。

医療内容が複雑・専門化し、一方で働き方改革により時間が切り詰められ、実臨床に使命を果たすだけでも困難が増す中、臨床研究に注ぐ情熱も時間もついそがれがちにならざるをえない時代となりました。しかし、日々抱く疑問、治せない不甲斐なさ、そういった想いが原動力となり臨床研究が連綿と続くことを信じています。院内の様々な職種のそれぞれの想いから今年もどんどん研究成果が産まれることを期待しております。

臨床研究センターはそんな医療現場の探求心を後押しし、院内の臨床研究をご支援し盛り上げていきたいと思っています。

今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

新年のご挨拶

統括診療部長　中島　寅彦

皆様、新年あけましておめでとうございます。昨年も感染症対策と並行した一般診療、救急医療の充実に取り組んだ忙しい年でした。特に救急車の受け入れ台数は年間で5,500台を超え過去最多を大幅に更新し、地域の高度急性期病院としての役割が再認識されました。診療関連ではLINEを用いた新患予約や画像診断機器共同利用の開始、ハイブリッド手術室の稼働など変化（進化）のある１年でした。今年も病院情報システムの更新、放射線治療装置新機種の導入、放射線治療棟の建設など大きなプロジェクトが予定されており病院はさらなる発展に向け進んでゆきます。

昨年、広報活動の一環としてYouTubeチャンネルを開設し、ダヴィンチ手術数1,000例を記念したビデオを作成、公開しました。地域の連携クリニックの先生方や患者さんへの情報発信とともに職員のモチベーション向上のためにも病院の広報活動を重視しており、今後ホームページの充実とともに活動を広げようと考えています。

ウサギ年にちなんで飛躍の年となることを祈念するとともに新型コロナウイルス感染症パンデミックの１日も早い収束を願っております。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

どうする？ 令和5年の九州医療センター

医療管理企画運営部長/医療情報管理センター部長　併任
地域医療研修センター長/栄養サポートチームチェアマン　福泉　公仁隆

新年あけましておめでとうございます。昨年も新型コロナウイルス感染症の対応、救急医療の充実等、光熱費の高騰、働き方改革等の多くの課題が残る慌ただしい１年間でした。令和５年も、当院もいろんな課題に対して最適・確実な方針「どうする？」を考慮して地域の皆さまに求められる医療機関でありたいと思います。

施設面では、かねてより要望のあった外来棟のトイレの改修工事が行われる予定です。また、放射線治療機器のリニューアルも予定されています。

令和４年12月に関係の皆さまのご協力により当院のWEBサイトをリニューアルしました。スマートフォンでも閲覧しやすくなり、当院の広報活動も充実することになるでしょう。令和５年中には、当院の病院情報システム（電子カルテ）の更新を行う予定です。近年、医療機関へのサイバー攻撃例も増加しており、当院においてもより一層のサイバーセキュリティ対策が望まれます。地域医療研修センターでは、各診療科の協力により地域医師のための生涯研修セミナーをオンラインと現地開催のハイブリッドで実施、日常診療に役立つ最新情報を発信しています。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

初期研修医への個人面談を終えて

臨床教育研修センター長　冨永　光裕

年頭にあたり、まずは臨床研修にご協力頂いているスタッフの方々に感謝申し上げます。

昨年10月から11月にかけて形成的評価目的で初期研修医に対し個人面談をおこなったが、その感想について述べます。

１年次の研修医に対しては、医師・社会人としてスタートから半年が経過した時点であり、健康状態や研修へのモチベーションが気になるところでした。幸いにも、全員健康状態は良好であり、研修についても、楽しい、充実しているなどの感想を述べる者が大半でした。上級医、指導医の方々の熱心な研修指導には大変感謝しています。また１年次後半の目標として、救急外来での初期対応の向上、担当症例の診療へのより主体的な関わりなどを挙げる者も多く、研修へのモチベーションは維持されていました。２年次の研修医は、ほぼ全員今後専攻する診療科・医局が決定しており、新たな研修へのモチベーションを持って研修最後の半年への意欲が感じられました。研修修了要件を多く残している者もいますが、当センターの例年以上の介入によりその人数は少なくなっており安堵しました。

これから春にかけては、当センターにとっても、研修医を送り出し、新たな研修医を迎える多忙な期間です。１年間を振り返り、反省・修正すべき箇所を洗い出し、研修指導管理業務のモチベーションを高めたいと思います。

新年を迎えて

看護部長　原田　久美子

あけましておめでとうございます。皆さま健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

新型コロナウィルス感染症に職員が一丸となって対応し、いつの間にか３年という月日が過ぎようとしています。この間、状況に応じた看護体制の調整、感染症看護の教育強化、面会制限された中での患者・家族への関わり等、感染拡大の波に翻弄されながらも課題の一つ一つに知恵を出し合いながら皆で乗り切ってきました。まだ収束がみえない状況ですが、この先もWithコロナとして柔軟に応じていきたいと考えています。

コロナに追われる中で、昨年は大きく２つのことに取り組みました。一つは、特定行為研修機関として研修を開始したことです。チーム医療推進の一環である特定行為は、医師のタスクシフトとして大きく取り上げられていますが、看護師の能力向上への期待も大きく、この研修を修了した看護師たちが、各部署・各病院で患者の状態をより早く深くアセスメントし看護を提供することで、患者の安全・安心な療養・看護につながると信じています。この研修では、多くの医師に指導者として協力をいただいており、看護師への期待を知る機会にもなっています。国立病院機構では、各部署・各勤務１名の特定行為研修修了者の育成・配置を目指しており、多くの看護師が受講できるように全力で支援したいと考えています。

もう一つの取り組みは、看護業務のタスクシフトです。昨年11月、派遣の看護助手の方々を迎え入れ、これまで活動されている看護助手さんとともに夜間の看護業務を担っていただいています。この効果は、夜間急性期看護補助体制加算取得とともに、看護師のベッドサイドの時間を増やすことができ、“寄り添う看護”の実践に直結しています。今年も看護職員がより多くの時間を患者さんの側で看護が提供できるよう業務の改善・効率化に取り組んでまいります。

今年も地域の皆さんの期待に応えられるような看護の実践に努めます。どうぞよろしくお願いいたします。

新年のご挨拶

事務部長　佐々木　豊光

新年あけましておめでとうございます。九州医療センター職員の皆さま、九州医療センターで働いてくださる関係者の皆さま、そして地域医療関係者の皆さまには日頃より病院運営に対し力強いご協力を頂き感謝申し上げます。その結果、病院評価指標である「医業収支」は、令和３年度に引き続き黒字達成が見込まれ、更なる充実・発展に繋がっていくと確信しております。さて、コロナウイルスと共生して３回目の正月を迎えました。最近は世間も賑わいが戻り発生時の恐怖も薄らぎすっかり“慣れ”てしまっている感があります。人類は医療の進歩と厄災にも適応し生物の頂点に至っていますが、これからは人類至上主義でなくOne Healthという意識・行動変革が未知なるウイルスへの対抗策ではないかと思います。

当院は令和６年に開院30周年を迎えます。福岡市では人口・高齢化率の増加が見込まれる中、「地域に必要な医療を提供する・地域の医療を守る」ことは非常に重要で、これを九州医療センターが先陣を切ってやる、それがNHOにおけるflagshipたるプライドだと考えています。今後も地域の期待・責務等に応えるために将来を見据えた「新たな姿の九州医療センター」を目指す１年にしたいと思います。

心臓血管ハイケアセンターの紹介

5階東病棟　看護師長　島居　基久

当センターは45床（HCU 4床を含む）で運用しており、循環器内科、心臓血管外科を中心に医療、看護を提供しております。またCOVID-19による病床再編のため、呼吸器外科の患者も受け入れております。今年度10月末までの病床稼働率は102%と忙しい病棟ですが、「当たり前の声掛けと少しの配慮」をモットーにし、38名の看護職員が勤務しております。

1 今年度のトピックス

①経カテーテル的大動脈弁置換術（TAVI）について

今年度の大きな出来事として、大動脈弁狭窄症の最新治療である経カテーテル的大動脈弁置換術（TAVI）のためのハイブリッド手術室が完成しました。当センターにおいてもTAVIのクリティカルパスの作成や勉強会を企画し、患者さんが安心して治療を受けることができるよう準備を進めております。

②脳卒中・心臓病等総合支援センターの開設（厚生労働省　令和４年度事業）

脳卒中や心臓病などの循環器病は介護が必要となる主な原因であるとともに福岡県においても悪性新生物につぐ死亡原因です。また循環器病は発症後に心肺・運動機能の低下や後遺症が残る可能性もあり、その状況に応じて患者や家族の不安、悩み、求められる支援も変化していきます。そのような患者や家族の様々な疑問や悩みを伺い、解決策を考えていくため、当院に県内で初めて脳卒中・心臓病等総合支援センターが開設されました。当病棟では心不全療養指導士の資格を有した看護師が院外からの様々な相談を受け付けております。

2 心大血管疾患リハビリテーション

心大血管リハビリテーション（以下、リハビリ）とは急性心筋梗塞や狭心症、慢性心不全、開心術後等の患者に対して行うリハビリです。平日は専従の理学療法士と看護師１名が午前はリハビリ室で、午後は５階のデイルームでリハビリを行っています。COVID-19の流行によりリハビリも縮小せざるを得ない時期が続きました。しかしリハビリは患者さんにとって早期の社会復帰のために重要であり、2021年の９月より、専用のリハビリ機器を整備し、５階病棟のデイルームで心臓血管リハビリを開始しました。患者さんにとっては窓の外の景色を眺めてリハビリを行うことで気分転換にもなり、とても好評です。

3 看護における取組

①看護を語る会

今年度から「心理的安全性」の確保を目的として、「看護を語る会」を開催しています。心理的安全性とは「組織内で誰もが拒絶されたり罰せられたりする心配をせずに忌憚のない意見を述べられる」状態のことで、組織心理学を研究するエドモンドソンにより提唱された概念です。参加は自由で、決まりは否定的な言葉を使わないことのみです。今年度は２回行い、初回は38名のスタッフ中、17名が参加してくれました。なぜ看護師を目指そうと思ったのかや先輩たちの失敗談などについて話しています。１年目看護師からみると大きく見える先輩達も、同じように失敗を繰り返しながら成長していることを知る機会にもなり、笑い声が絶えない会となっています。

②寄り添う看護の木

当院の「病む人に寄り添い、最良かつ安全な医療を提供します」という理念を踏まえ、当センターでは寄り添う看護の木を年に2回作成しています。患者や家族に寄り添うとはどのような事かをスタッフ全員が5つ挙げ、コード化して一つの木としています。2022年度寄り添う看護の木ではCOVID-19の面会制限が続く中で、どのようにすれば家族に寄り添うことができるかについての新しい言葉もでてきました。このように一人一人が自分の考えを言語化して、意識することで患者さんやご家族に寄り添うことができる病棟を目指しています。

医療最前線

ハイブリッド手術室の可能性と展望

心臓血管外科　科長　今坂 堅一

ハイブリッド手術室は手術室と高画質の心・血管X線撮影装置（透視・3D撮影）を組み合わせた手術室のことです。手術室と同じ清潔度を保持した環境下で、血管内治療と外科的手術を同じ部屋で行うことが可能です。撮影画像はその場だけでなく、手術以前に行った画像検査もそのまま利用でき、鮮明で解像度の高い画像を見ながらカテーテル治療や精度の高い手術が可能となります。様々な治療を同時進行で行えるため、入院期間の短縮に大きく寄与するものと考えられます。また、安全性の面でも利点があり、カテーテル治療を行っている最中に異変が生じた場合にすぐに開胸・開腹・開頭手術に切り替えることが可能です。当院では2022年10月よりハイブリッド手術室が稼働開始となりました。

ハイブリッド手術でしか施行できない治療としてTAVI（経カテーテル大動脈弁置換術）があり、当院でも同治療を行う体制が整い施行開始に向け準備をすすめています。TAVIは、2002年４月に重症大動脈弁狭窄症（AS）に対して、Alan Cribierらによって初めて人間に施行されました。本邦でも2010年４月に治験が開始され、その成績をもって2013年10月より保険償還されて本日に至っています。2022年11月時点で日本の215の施設がTAVIを行っています。これまでは、人工心肺使用心停止下に大動脈弁を置換するしかありませんでしたが、この治療法は経カテーテル的に弁置換を行い低侵襲で早期回復が期待できます。経大腿動脈アプローチによるTAVIであれば１週間程度で退院が可能です。当初はハイリスク症例のみに行われていましたが、2019年に発表されたPARTNER３試験おいて低リスク患者においてもTAVIの有効性が示されました。この結果を受け、急速にTAVIの適応が拡大し手術数が増加しています。TAVI弁にはSapien弁（エドワーズ社製）、CoreValve弁（メドトロニック社製）、Navigator弁（アボット社製）の３種類があります（図参照）。Sapien弁はバルーン拡張型生体弁であり、CoreValve弁およびNavigator弁は自己拡張型弁です。また、Sapien弁とNavigaror弁はウシ心膜を人工弁として使用しており、CoreValve弁はブタ心膜を使用しています。いずれのTAVI弁においても長所と短所が存在し、詳細は紙面の都合上割愛しますが、個々の患者に応じて至適な人工弁を選択することが望まれます。また、TAVI留置の際にはほとんどの症例で経大腿動脈的に行うことが可能ですが、アクセス経路が非常に悪い場合には、経心尖部、経大動脈、経鎖骨下動脈への様々なアプローチがあり術前の厳密な評価が必要です。

経カテーテル弁膜症治療はTAVIだけでは無く、外科的僧帽弁手術の危険性が高い、あるいは不可能と判断された場合に施行可能なMitraClipや、経カテーテル肺動脈弁置換術（TPVI：先天性心疾患が適応）が本邦で施行されています。また、僧帽弁における経カテーテル的弁置換術や、三尖弁に対する経カテーテル三尖弁形成術や置換術が今後導入されてくるものと思われ、弁膜症治療は経カテーテル治療が主流になってくるかもしれません（勿論、しっかりとしたエビデンスが構築された上での話ですが…）。ハイブリッド手術室はこれまでの内科や外科の垣根を超えた治療を提供できる場所として大きく貢献するものと考えられます。当院においても様々な治療法が患者様に提供できるように努力していく所存です。

Sapien 3（エドワーズ社製）

CoreValve（メドトロニック社製）

Navigator（アボット社製）

チーム医療 ルネッサンス

九州医療センター 脳卒中・心臓病等総合支援センターを開設

副院長／モデル事業統括責任者　岡田　靖

1．脳卒中・心臓病等総合支援センターモデル事業

令和４年度、九州医療センターは脳卒中・心臓病等総合支援センターを開設しました。この活動は、厚生労働省の補助金事業で行われており、循環器病対策基本法に基づく循環器病対策推進計画の施策の中で課題となっている脳卒中や心臓病等の患者さん、ご家族の包括的な支援をめざしています。モデルとなる中核施設と各都道府県の行政機関とが連携して県民や患者さんに支援し、また相談を受けて、啓発事業として市民公開講座を開催します（図１）。また地域の医療機関やかかりつけ医、医療従事者の方々のために、研修事業、啓発資材の開発などを行うことが主な活動です。令和４年度は、公募により全国で10府県が選定され、九州医療センターが中心的役割を担う施設として福岡県も選定されました。

2．プロジェクトチーム

令和４年６月から院内に脳卒中・心臓病等総合支援センタープロジェクトチームを立ち上げ、毎月会議を重ねて８月から総合支援センターを開設しました。プロジェクトチームのメンバーは病院長、副院長、統括診療部長、看護部長の幹部に加えて、脳血管センターおよび循環器センターの医師・看護師および担当の薬剤師・管理栄養士・リハビリテーションスタッフおよび医療ソーシャルワーカー、MCセンター、地域連携室、事務部（経営企画課と管理課）から成り立っています。また主な相談対応者は看護師、医療ソーシャルワーカー、リハビリスタッフ、医師などです（写真１）。

3．これまでの活動と今後の展望

８月末から入院患者さんの相談を開始、さらに９月末からは県内の患者さんやご家族の方々からの相談も受け付ける窓口を地域連携室に設置して、2022年11月現在、158件の相談に対応しています（図２）。また研修事業ではすでに県内の救急救命士、保健師を対象とした研修を実施し、2023年２月にはかかりつけ医を対象とした研修会も実施します。市民公開講座も10月の脳卒中月間にWEB開催し、本年３月には日本循環器学会のプログラムの一つとして心臓病の公開講座を開催予定です。次年度以降は、さらに横展開して県内の医療機関との連携も図っていきます。

このように脳卒中・心臓病等総合支援窓口は、がん診療拠点病院のがん相談窓口と同様に急性期専門医療施設から在宅医療や生活まで、ワンストップで患者・家族の包括的な支援を行うための新たな仕組みであり、新たなチーム医療の発展が期待されます。

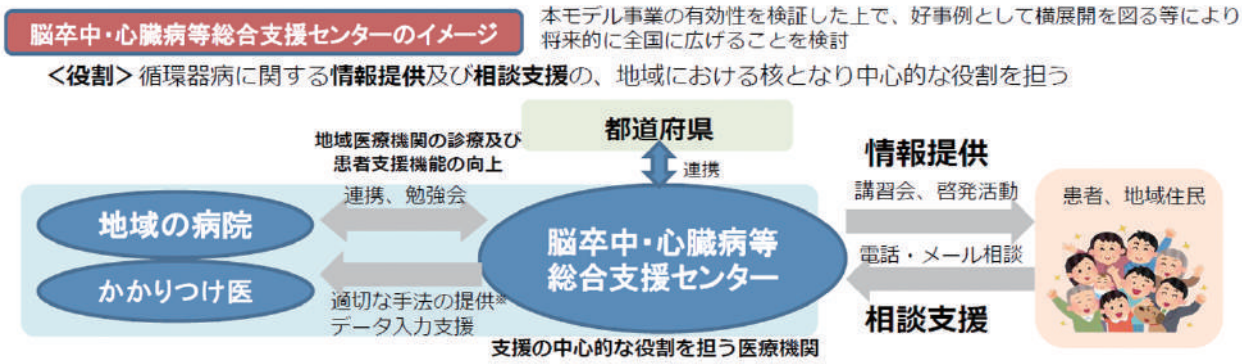


図１　脳卒中・心臓病等総合支援センターのイメージ

図２　脳卒中・心臓病等総合支援センターの案内

写真１　メディカルコーディネートセンターに集合した相談窓口のメンバー

No.101

ヒポクラテスのカフェ

“食物連鎖：マカロンの話”

NHO 都城医療センター　吉住 秀之

マカロンが先ず第一の贅沢なもの、これは後年「人形の家」のノラが、しきりに食べることを知り、イプセンも、マカロンの愛用者ではなかったかと思った。マカロンの、いささか濃厚な味は、しかしフランス乾菓の王者だった。

（古川緑波『甘話休題』）

マカロンmacaronというフランスのお菓子（イタリアが元祖という説もあります）は、今では日本でもすっかり有名になり、色鮮やかであることからインスタ映えするスイーツとして人気がありますが、認知度が高まったのは平成17（2005）年にピエール・エルメ・パリが東京青山に出店してからのようです。当時私も初めて見たときにはこんな菓子もあるのかと思いましたが、これは私の勉強不足。日本には意外に古くから舶来菓子として入ってきていました。冒頭にあるように『人形の家』のノラが食べる菓子として書かれており、古川緑波（1903-1961）は、その濃厚な味に舌鼓をうっていたようですし、森鷗外（1862-1922）も『翻訳に就いて』というエッセーで、「ノラの食べるお菓子を予はマクロンと書いた。それを飴玉と書けと教えて貰つた。これなんぞにはあつとばかりに驚かざることを得ない。（中略）西洋の女がマクロンを食ふ場合と、日本の子供が飴玉を食ふ場合との相違はどの位違うか、少し考えてみるが好い。誰やらの小説に、パリイの女学生二人がカルチエエ・ラテンの下宿あたりマクロンを頬張りながら失恋の話をしている所がある。あそこなんぞを飴玉にしたら、さぞ面白からう。日本固有の物で、ふさはしいものにして書けと云ふ教であるが、予なんぞは努めて日本固有の物を避けて、特殊の感じを出そうとしている。それもふさはしい物ならまだしもである。日本固有の物にして、しかもふさはしくないと来てはたまらない。」と、なじみのないマカロンを飴玉と訳せばいいとする翻訳に対して反論しています。こう反論をしたのも、洋行経験のある鷗外にとってマカロンは馴染みのあるお菓子だったからです。彼の弟潤三郎も鷗外は和菓子より洋菓子を好み、「マカロンという丸い乾菓を本郷青木堂から断えず取寄せて子供にも皆それを食べさせた」と回想しています。

ちなみに『人形の家』でマカロンがどう訳されているか調べると、「パン菓子」が２点（島村抱月、毛利三彌）、「マクロン」が1点（矢崎源九郎）、「マカロン」が２点（原千代海、林穣二）でした。林訳では丁寧に「アーモンドの粉を練って天火で焼き上げた菓子。語源はイタリアのヴェニス法源のマカローネ」と解説付きです。

日本人に馴染みのないものをどう翻訳するかという点については、医学用語にも似たようなことはあって、病理組織学で出てくる線維肉腫の腫瘍細胞の配列はherring bone patternと呼ばれますが、杉綾模様と訳してあります。また隆起性皮膚線維肉腫の特徴的所見であるstoriform patternは、花むしろ状と訳してあります（ラテン語のstorea（織り上げられた）が語源）。どちらも日本人に馴染みのある模様として訳されたのでしょうが、初学の時服飾や工芸に疎かった私にはちっともピンとこなかった記憶があります。

今回は、私の出身地、鹿児島県霧島市の霧島神宮の見どころをご紹介します。年間約150万人の参拝者で賑わう霧島神宮。天孫降臨神話の主人公であるニニギノミコトをまつった霧島神宮は、創建が６世紀頃と伝わり、数少ない「神宮号」を名乗る神社です（ちなみに、霧島市には同じく神宮号を名乗る鹿児島神宮もございます）。ひっそりと緑に包まれた参道を上ると、格調高い朱塗りの厳かで立派な社殿があらわれます。「西の日光」と呼ばれる美しい社殿は、令和４年２月９日には「本殿（ほんでん）、幣殿（へいでん）、拝殿（はいでん）」が国宝に指定されました。ニニギノミコトをはじめ七柱の神様をまつっており、そのご利益は多岐に渡ると言われています。そのご利益にぜひあやかりたいと、30年ほど昔になりますが、私自身も、こちらで挙式を執り行っていただきました。お陰様で、家内安全のご利益を承っているような気がしております。また、樹齢800年の御神木やさざれ石、霧島七不思議の伝説など、パワースポットとしても人気です。そして、幕末の坂本龍馬とおりょうさんが、日本初の新婚旅行で参拝したことでも有名です。境内は、四季の花と紅葉の名所で、桜は３月下旬～４月上旬、ミヤマキリシマが６月下旬、紅葉は11月下旬ごろまでが見頃です。周辺には美しい景観や自然豊かな絶景を楽しめる場所もあり、都会を離れた神聖な空気を味わえる場所です。霧島神宮へ「おじゃったもんせ～！（おいでくださ～い！）」

ペンネーム：キリシマイスター

教授就任のご挨拶

中尾 新太郎

2020年４月より九州医療センター眼科に赴任しました中尾新太郎です。この度、森田院長はじめ多くの方々のお力添えにより、順天堂大学医学部眼科学講座主任教授という大きなチャンスをいただきました。その選考過程におきましては、九州医療センターにおける眼科診療への取り組みが評価されたと思います。約２年半の在任中は院内の先生方、スタッフの方々にはたくさんのサポートをいただきました。また近隣の先生方には多くの患者様をご紹介いただきました。至らぬ点も多々あったかと思いますが、この場をお借りして、心より御礼申し上げます。在任中はちょうどコロナ禍ではありましたが、病院幹部の先生方、そして病院事務とスタッフの方々にご協力いただき、多くの取り組みを行うことが出来ました。赴任後外来にて多くの患者様とお話しする中で、入院が困難な方が多くいらっしゃる事を感じました。そこで眼科スタッフの協力を仰ぎ、日帰り手術を開始いたしました。将来的には更に日帰り手術を安心して受けていただける様になり、その比率も伸びていく事が期待されます。また、コロナの感染流行が落ち着いた時期には、開業医の先生方にお時間をいただき、直接ご挨拶に伺いました。その中で開業医の先生方が外来診療に大変忙しくされている事を実感し、少しでもご紹介の手間を省いていただけたらと考え、眼科独自のライン予約を開始する事も行ないました。FAXやお電話だけでなく紹介の選択肢が増える事は病診連携にとって良い事であると実感した次第です。

2022年12月より赴任しました順天堂医院は歴史があり、御茶ノ水という都心に位置する大学病院です。これは医療を行う上だけでなく、患者様にとっても最高の立地であると考えます。私は眼科医となって25年経ちますが、眼科医療は単独では成り立たない事を実感しています。そのため、他科の先生方との連携、そして地域の先生方の連携が重要であると考えています。これは九州医療センターでの勤務の中から学ばせていただいた事であり、この経験を活かして引き続き眼科医療の発展に尽力する所存であります。今後とも引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いします。

新任のご挨拶

眼科科長　長谷川 英一

2022年12月より眼科科長を拝命しました長谷川英一と申します。これまでは九州大学病院にて眼科診療、手術、臨床研究に携わっておりました。専門は眼内に炎症を来たすぶどう膜炎疾患で、免疫学的見知から炎症発症・収束の機序についての基礎研究も行ってまいりました。眼科診療を取り巻く環境は常に変化を続け、検査機器の進歩、新薬の登場はもちろん、近年は画像診断をはじめとする医療人工知能（AI）の開発も進行しております。医療センターでも最新最適な医療を患者さんに提供できるように精進してまいります。

医療センター眼科は現在、眼科専門医２名と眼科レジデント２名の体制で診療しております。白内障手術はもちろん、増殖糖尿病網膜症、網膜剥離をはじめとする網膜硝子体疾患に対する硝子体手術や糖尿病性黄斑浮腫や加齢黄斑変性に対する抗VEGF薬硝子体投与も積極的に行っております。緑内障手術は従来の手術方法に加えて、最近ではiStentと呼ばれる極小のデバイスを使用した低侵襲緑内障手術も導入しております。また当院では、感染症を含め原因が多岐にわたるぶどう膜炎症例において、眼内前房水を採取しPCR検査を行うことで各種感染症の診断が可能です。眼疾患には全身疾患に関連する疾患も数多くあり、眼症状初発から全身疾患の診断に至ることもよくありますので、各診療科の先生方としっかり連携を取りながら原因精査、治療を行っていきます。地域眼科診療の中核となり、患者さんの光を守るべくスタッフ一丸となって診療にあたる所存ですので、何卒宜しくお願いします。

人事の動き

令和４年10月２日～令和５年１月１日

医療職（一）

就任	眼科医長	長谷川英一	退任	眼科医長	中尾新太郎

地域医師のための生涯研修セミナーのご案内

２月18日（土）14時～ 17時

第11回　循環器内科・泌尿器科領域

前半：急性及び慢性冠動脈疾患のマネージメント

当院 循環器内科医長　村里 嘉信

後半：尿路上皮癌の診断・治療update

九州大学大学院医学研究院 泌尿器科学分野准教授　猪口 淳一

３月４日（土）14時～ 17時

第12回　ゲノム診療部・特別講演

前半：がん治療の個別化と「がん遺伝子パネル検査」

当院 腫瘍内科科長/がんゲノム診療センター長　田村 真吾

後半：医療従事者として注意するべき個人情報保護と情報セキュリティー

当院 医療情報システム管理部長　若田 好史

他詳細は、当院HP「ささえる」枠内「地域医師のための生涯研修セミナー」よりご確認下さい。

【お問い合わせ先】

地域医療研修センター

E-mail:602kenshu@mail.hosp.go.jp

お知らせ　九州医療センターのWEBサイトをリニューアルしました

この度、2022年12月１日　独立行政法人国立病院機構九州医療センターの**WEBサイト（ホームページ）をリニューアル**しました。

リニューアルに伴い、スマートフォンでも閲覧しやすくなりました。地域の皆さま、医療関係者の皆さまを支える医療に関する当院の情報を簡潔でわかりやすく発信しています。また、研修医をはじめ医療人の育成に関する情報も発信しています。日本語から英語への変換も可能になり、海外への情報発信も可能になりました。

今後も九州医療センターの新しいWEBサイトをご利用いただきますようよろしくお願いします。

新しいアドレス

https://kyushu-mc.hosp.go.jp/

医療情報管理センター部長　福泉 公仁隆

編集後記

可愛い子ウサギの写真が手に入りましたので表紙にしました。ウサギの耳はなぜ長い？天敵から身を守るために長い耳をアンテナ替わりにしてかすかな物音も聞き逃さないようにしているためというのは想像つきますが、もう一つの役割があるそうです。それは体温調節です。ウサギの耳には毛細血管が張り巡らされており、この血管に風を当てて中の血液を冷やして体が熱くなりすぎるのを防いでいるそうです。学研キッズネットに書かれていました。

副編集委員長　占部　和敬

2023年が始まりました！　今年は「卯（うさぎ）」の年。昔から「卯ははねる」ことから「飛躍する」年と言われてきました。皆様にとってさらにstep upできる年になりますように。KMC NEWSからも様々な角度から元気に情報が「飛び出し」ます。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

編集委員長　髙見　裕子

医事統計　患者数・推移の診療点数

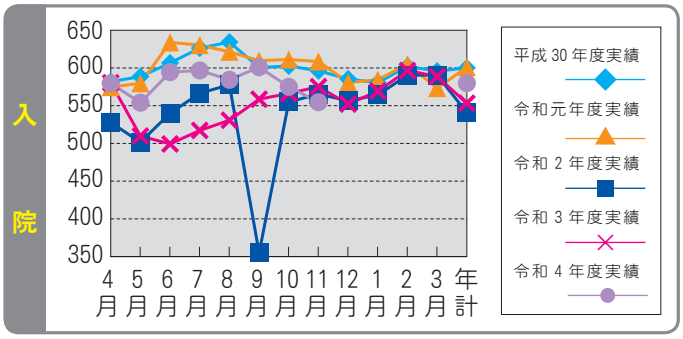
■令和４年度は、月平均在院患者数600人と、病床利用率85%達成に向けて取組んで行きましょう！（令和４年11月現在の暫定値）
　外来新患者数は、今年度11月までの実績で16,492名と前年同月までと比べ3,181件の増となっています。今年度も、新紹介患者の確保と逆紹介の推進が重要となります。1日平均外来患者数は、11月までの実績で909.7名と昨年同月までの実績（878.1名）と比較して31.6名の増となっております。
　１日平均入院患者数は今年度11月までの実績で579.9名と昨年同月までの実績（542.0名）と比較して37.9名の増となっております。新入院患者数は11月までの実績で昨年度同月までと比較すると674名の増となっております。平均在院日数につきましては、昨年度と比較して0.1日伸びて12.4日となっております。
　入院１人１日当たり診療点数は、今年度11月までの実績で8,084.6点と昨年の実績と比較すると53.0点の減となっています。外来1人1日当たり診療点数については、今年度11月までの実績で3,194.1点と昨年同月までの実績と比較して49.3点の減となっております。
　紹介割合は、11月までの実績で92.5%となっており高い割合を維持しています。

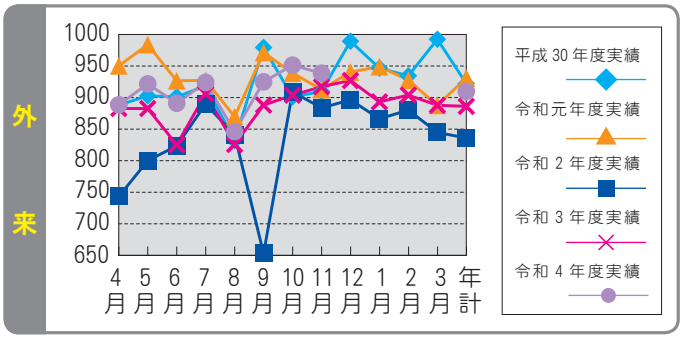
１日平均入院患者数（在院）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
平成30年度実績	581.9	588.5	606.6	626.3	634.3	600.6	602.6	596.2	585.4	580.4	602.1	595.8	600.1
令和元年度実績	574.6	579.8	633.9	630.3	621.4	609.7	611.2	608.6	580.7	584.4	605.0	573.3	601.0
令和２年度実績	527.8	501.6	540.0	566.5	577.7	354.8	555.0	565.3	556.5	564.2	590.5	590.4	540.9
令和３年度実績	580.4	509.8	499.3	517.2	530.7	558.6	566.3	575.2	552.1	569.3	596.6	588.7	553.3
令和４年度実績	579.6	554.0	594.5	596.7	584.3	601.1	575.0	554.6					579.9

１日平均外来患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
平成30年度実績	888.1	902.8	901.1	918.6	831.7	979.4	901.2	909.6	989.3	946.6	934.5	992.4	922.1
令和元年度実績	950.2	983.9	926.6	927.3	869.6	971.4	938.9	912.7	940.5	948.9	927.7	887.7	931.2
令和２年度実績	743.3	800.1	823.4	889.9	840.8	653.0	909.2	883.6	896.4	866.4	880.2	844.7	836.0
令和３年度実績	882.7	882.6	825.3	906.0	825.7	888.1	903.8	917.2	927.0	893.2	903.9	887.8	886.1
令和４年度実績	888.5	921.7	891.1	924.0	846.1	924.9	951.3	938.6					909.7



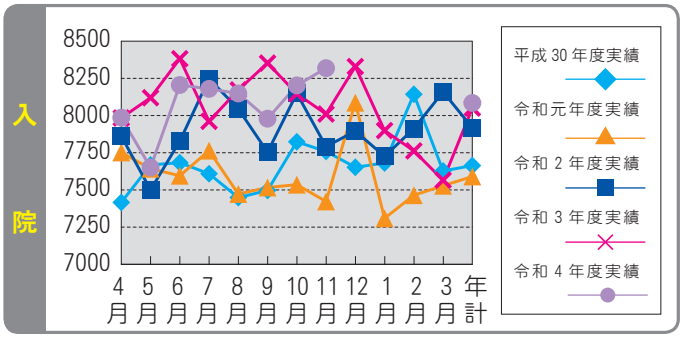


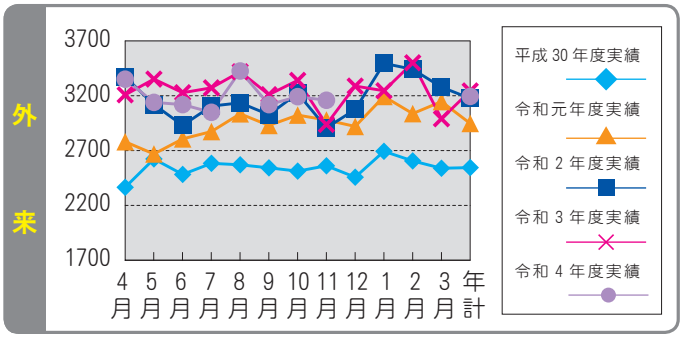
入院１人１日当り診療点数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
平成30年度実績	7,416.3	7,668.2	7,683.2	7,608.8	7,448.6	7,496.7	7,823.6	7,758.6	7,652.4	7,681.2	8,143.1	7,627.6	7,663.8
令和元年度実績	7,752.0	7,642.8	7,595.5	7,764.1	7,472.8	7,516.6	7,535.3	7,422.6	8,086.5	7,309.2	7,464.6	7,528.1	7,590.5
令和２年度実績	7,862.5	7,500.1	7,827.7	8,247.6	8,044.8	7,753.7	8,149.1	7,791.3	7,895.8	7,725.7	7,912.4	8,159.6	7,917.4
令和３年度実績	7,983.7	8,119.7	8,381.9	7,961.4	8,172.2	8,352.7	8,146.2	8,010.4	8,329.4	7,899.1	7,762.5	7,565.7	8,050.3
令和４年度実績	7,986.1	7,650.9	8,205.6	8,179.4	8,148.4	7,979.0	8,202.6	8,318.7					8,084.6

外来１人１日当り診療点数

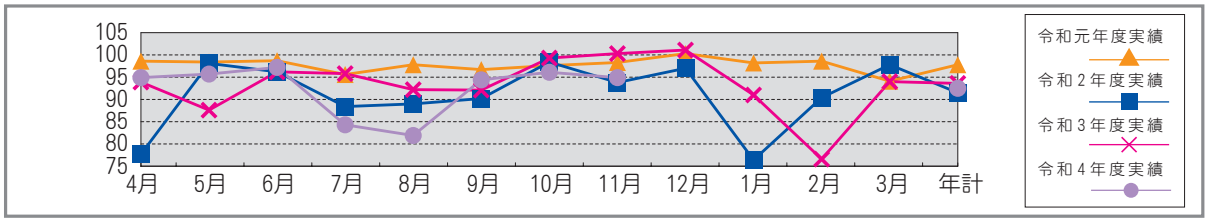
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
平成30年度実績	2,365.1	2,623.8	2,482.6	2,583.8	2,570.3	2,542.5	2,512.8	2,561.2	2,457.2	2,693.5	2,605.6	2,538.8	2,544.8
令和元年度実績	2,780.4	2,669.1	2,806.7	2,873.5	3,035.4	2,929.2	3,023.6	2,978.7	2,920.1	3,193.5	3,037.1	3,146.7	2,947.4
令和２年度実績	3,372.3	3,119.3	2,930.1	3,105.9	3,135.4	3,027.2	3,222.5	2,907.3	3,074.9	3,495.5	3,441.0	3,278.8	3,175.6
令和３年度実績	3,208.4	3,351.9	3,227.9	3,272.2	3,418.7	3,209.9	3,340.1	2,938.5	3,288.3	3,245.5	3,500.6	2,990.2	3,243.9
令和４年度実績	3,351.1	3,139.6	3,119.2	3,049.0	3,425.7	3,118.9	3,191.8	3,158.9					3,194.1





紹介割合推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
令和元年度実績	98.6	98.4	98.7	95.6	97.8	96.7	97.6	98.3	100.3	98.2	98.6	94.1	97.8
令和２年度実績	77.7	98.1	96.2	88.4	89.0	90.2	98.4	93.8	97.0	76.4	90.4	97.8	91.5
令和３年度実績	93.9	87.6	96.2	95.8	92.2	92.1	99.3	100.3	101.1	91.0	76.6	94.0	93.6
令和４年度実績	94.9	95.7	97.2	84.3	81.9	94.4	96.1	94.9					92.5



株式会社 陽 文 社　福岡市博多区那珂５丁目7-37　TEL（092）412-7331　FAX（092）412-7332

発　行　独立行政法人 国立病院機構 九州医療センター　広報誌編集委員会
〒810-8563 福岡市中央区地行浜 1-8-1　TEL 092-852-0700　FAX 092-847-8802